

昭和五十七年五月

蟹江町歴史民俗資料館 青少年版

郷土かにえのお話

鈴木四郎左衛門の新田開発とその後の発展

―海西郡鳥ヶ地前新田の場合―

長尾英彦

はじめに

- 一の章 鳥ヶ地前新田の誕生
- 二の章 生みの親、鈴木四郎左衛門重直と鈴木家（蟹江家）について
- 三の章 梶場新田の呼び名
- 四の章 梶場新田の発展その一
- 五の章 素箋鳴社物語
- 六の章 梶場新田の発展その二

はじめに

鈴木四郎左衛門重直は、尾張国海東郡蟹江本町村（海部郡蟹江町大字蟹江本町）に生まれた人で、その一生のうちには荒地の開墾、新田の開発とその発展、水上輸送や交易、また政治・経済活動を通して藩政への寄与……。など、いくつかの事業をした人で、郷土・かにえの偉人として知られた人です。

数々の活動の中で一番光っているのは何といつても海西郡鳥ヶ地とりがなんぢまゑ前新田を開発し、この新田と三〇〇年近いかかわりを持ち、当時としては他にあまり例のない特色ある経営を続けた「鈴木四郎左衛門家」のいとぐちを開いたことです。

開発が始まった頃、築かれた大堤防を馬にまたがって見廻ったことから、完成後「四郎左堤」とよばれた堤も、今はその名残りを残すのみですが、この堤にかこまれた「鳥ヶ地前新田」（海部郡十四山村いかにば枰場新田）について、かいてみました。

一の章ではデルタ地帯の筏川川口にどのようにして新田がつくられたか。お金のこと、工事のこと、二の章では開拓者初代鈴木四郎左衛門と鈴木家のこと、三の章では新田が生まれてからのいくつかの呼び名のこと、四の章では生まれた新田が一人前の新田村となったこと、五の

一の章 鳥ヶ地前新田の誕生

∴ 梶場新田はいつ、どのようにして開発されたのか。現在の海部郡十四山村鳥ヶ地新田の南に接して当時の「海西郡鳥ヶ地前新田」、現在の「十四山村梶場新田」が誕生した前後のようすはどんなであっただろうか∴∴。

一、鳥ヶ地の堤防に立つて

梶場新田が誕生する前、海の水は鳥ヶ地新田の大堤防まで来ていました。今、鳥ヶ地のどこをみても、大堤防はそのままの姿では残っていませんが、当時鳥ヶ地新田の土地、人々、そしてその生活を守るため、現在の六条の天王社（天王さま）から、南東へむけ、みろくし 弥勒寺裏を通り、すじかい 道新政成・弥富線を更に南東にむかい、鳥ヶ地新田下の割、深江から北東に向きを変え、筋違橋まで、そして東の方子宝新田の境まで、大きい堤防が築かれていました。東堤という今の地名や、この堤防が不用になって高く盛られた土砂が取り崩されて、広い道路や畑になった堤防のあとが「古堤ふるつみおこし」「古堤はしり」とよばれたことによっても、昔は大堤防であったこと